



「しまの暮らしをささえ、
地域をつくる図書館」
をミライへ

五島市立図書館 館長 野口 良美



五島市紹介

- ▶ 10の有人島と53の無人島
- ▶ 海岸線の長さ549km
- ▶ 有人島の面積合計が407km²(福江島326km²)
- ▶ 平均気温 17.8度
- ▶ 台風接近、梅雨時期に大雨
- ▶ 地震は1920(大正9)年から2020(令和2)年間に震度4以上は無し

五島市の近況

- ▶ 2004(平成16)年8月に1市5町が合併、今年で20年
- ▶ 合併当初の人口は47,614人
- ▶ 2024(令和6)年3月現在の人口は33,861人
- ▶ 若い世代を中心とした移住者が増えている
- ▶ 令和元年、2年、5年には社会増を達成
- ▶ NHKの朝ドラ「舞いあがれ！」や人気コミックのドラマ化「ばらかもん」で注目されるようになった
- ▶ 俳優川口春奈さんは五島市の出身

世界遺産登録とジオパーク認定

- ▶ 2018(平成30)年7月に世界遺産登録された
- ▶ 「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」
- ▶ 五島市には「久賀島の集落」、「奈留島の江上集落」の2つの構成資産がある
- ▶ 2022(令和4)年1月に「五島列島(下五島エリア)ジオパーク」の認定がされた

五島市の産業

- ▶ 農業 肉用牛、養豚の畜産業が盛ん
野菜、葉たばこ、米が主要な農産品
- ▶ 漁業 定置網、さしあみ漁、はえなわ漁が中心
最近は鯛、クルマエビ、まぐろの養殖業も行っている
- ▶ 観光 世界遺産登録後、五島への旅行者が増加している
- ▶ 再生可能エネルギー事業として
浮体式洋上風力発電の商用化や潮流発電の実証実験も
行っている



椿の自生地

- ▶ 2025(令和7)年2月
「第35回全国椿サミット五島大会」が開催予定
- ▶ つばきを使った名称「五島つばき空港」、
五島市のキャラクター「つばきねこ」、ホテル、演歌歌手
- ▶ 五島市立図書館の移動図書館車「ドリームつばき号」

旧図書館

- ▶ 石田城1863(文久3)年築城 日本で最も新しい城として有名
 - ▶ 本丸跡地に長崎県立五島高等学校
 - ▶ 図書館の前身となるホテル
- 1959(昭和34)年 北の丸に「ホテル翠仙閣」を建設
- 1983(昭和58)年 旧福江市が購入
- 1990(平成2)年 改築
- 1991(平成3)年 福江市立図書館開館

移動図書館

- 開館当初はコンテナに積み、タクシーを借上げて巡回
- 1996(平成8)年、初代移動図書館車購入
- 名前を募集、図書館協議会で「ラブリーつばき号」に決定
- 初期は公民館を中心に巡回
- 1998(平成10)年、小学校への巡回開始(2次離島含む)
- 1,200冊を積載
- 2016(平成28)年1月 2代目移動図書館車「ドリームつばき号」運行開始

旧図書館の劣化、不具合

- ▶ 築40年超え、老朽化、白蟻の被害
- ▶ 3階建て、エレベーターが無い
- ▶ 3階にある視聴覚室
普段は学習室
会議研修時は会議室
読み聞かせボランティアの練習
子ども向けイベントの会場

に利用された

台風接近、大雨への対策

- ▶ 雨漏りの恐れがある箇所には、事前にバケツ、雑巾を置く
- ▶ 窓のサッシからの吹き込み予防としてサッシにタオルを詰め込む
- ▶ 違いを見分けることができるように図書館の外観の写真を定期的に撮影し、被害の有無の確認
- ▶ 館外書庫の点検、見回りをし雨水対策



新図書館整備計画の流れ

- 2001(平成13)年
福江市立図書館建設基本計画策定
- 2005(平成17)年
五島市立図書館整備計画検討委員会発足
- 2006(平成18)年五島市立図書館整備基本構想を教育長へ
答申

いずれも、計画断念に終わった



前回の図書館建設計画の流れ

- ▶ 2009(平成21)年
- ▶ 図書館協議会が館長へ答申
- ▶ 市長・市議会議長へ陳情書提出、議会採択
- ▶ 五島市総合計画のひとつに図書館建設計画
- ▶ 2010(平成22)年 建設関連事業予算が計上された



建設計画

- 面積は733㎡を2,900㎡
- 駐車場は20台から60台へ
- 開架の配架冊数を63,000冊から10万冊へ
- 受入雑誌を74タイトルから160タイトルへ
- 視聴覚ホール、会議室、ボランティア室、喫茶コーナーの設置
- 通年で故山本二三氏の作品展示計画

反対運動

- ▶ 地元新聞に計画が掲載されてから図書館建設反対運動、署名活動が始まった
- ▶ 「身の丈に合った図書館」という言葉が飛び交った
- ▶ 各公民館で説明会を開催

合併特例債の活用期限が迫っていたこと、2014(平成26)年、消費税が5%から8%へ引き上げられることから、予算面において、タイムリミットが迫っていた

2012(平成24)年3月議会前に予算が削除された

新図書館への動き

- ▶ 2016(平成28)年 市民アンケート実施した
- ▶ アンケート結果として資料の充実、開架、学習室、駐車場スペースの確保、館内飲食、館内で音楽の視聴の要望があった
- ▶ 新図書館整備計画検討委員会を設置した
- ▶ 2010(平成22)年度の計画見直しを行った
- ▶ 説明会を7箇所で開催した
- ▶ 2018(平成30)年 新図書館整備基本計画策定 ワークショップ



新型コロナウイルス感染の 影響

- 2020(令和2)年 1月末 設計業務完了した頃、
新型コロナウイルス感染確認
- 新型コロナウイルス感染拡大
- 東京オリンピック競技施設整備の資材の高騰
- 人的物的確保が困難となる
- 入札が2度不調に終わる

新図書館

- 資料にICタグ貼付し、自動貸出機を設置、利用者自ら貸出処理を行う
- 帰省客、観光客の滞在者へも貸出を可能とした
- 取扱い雑誌を69タイトルから120タイトルに増加
- 閲覧席 30席ほどから160席へ増加
- 児童書コーナー3倍ほど拡充されたことにより配架冊数が倍増した
- 郷土資料室を設置
- 駐車場 20台から約80台ほどへ増加
- 開館時間 金曜日のみ19時まで開館



新図書館

- ▶ 館内蓋付き飲物可、エントランスホールのみ飲食可
- ▶ 自主事業増加
- ▶ 多目的室、学習室、エントランスホールをイベント規模に応じて広さを変更
- ▶ フリーWi-Fiの設置

今後 ミライへ

- 図書館の基本理念「しまの暮らしをささえ、地域をつくる図書館」
- 「地域の情報拠点」として、多種多様な情報の集積と、日常生活で発生する悩みや課題に対し、解決の手がかりを提供する
- 「読書活動拠点」として、豊富な資料の提供、読書を進める働きかけを行い、読書習慣を身に着ける働きかけを行う
- 「生涯学習拠点」として、資料情報以外にも、学びの場の提供や生涯学習の重要な拠点としての役割を果たす
- 「地域文化遺産の保存・活用拠点」として、文化・歴史的資料が散逸を防ぐために、資料の収集・保存、郷土・地域資料を積極的に提供する
- 「まちの活性化拠点」として、人づくり役割と図書館を介した学習活動や文化的活動を進め、新たな地域文化の創造とコミュニティの強化と発展へ繋げる



ご清聴
ありがとうございました。

